

住居の空間構成に関する研究

——広義と狭義の機能図——

佐々野 好 継

長崎大学教育学部住居学教室

(平成10年10月30日受理)

A study on the spatial structure of house

——a function diagram of broad and narrow sense——

Yoshitsugu SASANO

Department of Housing science, Faculty of Education,
Nagasaki University, Nagasaki 852-8521, Japan

(Received Oct. 30, 1998)

Abstract

Purpose and method:

The purpose of this paper is to clarify the validity of the analytical method using a functional diagram in broad sense which was elaborated and clarified in the last paper, through an analysis of 11 examples of housing plans collected from the viewpoint of two pairs of coordinate axis, namely: 1. East and West, and 2. modernity and tradition.

A functional diagram in broad sense, in this case, means one which express a combination-unit-space of parts-unit-space which is the minimum-unit-space for living activities and whole-unit-space which is an abstract and formless space.

Whole-unit-space is also used to recognize and understand a plan of a house itself as a single-unit-space.

Conclusion:

In the case of space analysis of housing space , particularly for a housing space in Japan, analysis from the standpoint of functional diagram on broad sense is considered to be valid.

Furthermore an entity of the combination-unit-space is characteristic of a spatial structure of Japanese housing.

緒 言

1. はじめに

前稿では、住居の空間構成における単位空間には、両義性があり、これまでの住居の空間分析には、狭義の単位空間の視点からの機能図が適用されてきたこと。そして、その上で、狭義の機能図を内包した新しい視点からの広義の機能図を提案した。

しかし、その分析・適用のための事例が一前稿の目的が、広義と狭義の機能図の論理的対応関係を明らかにすることにあつたとは言え一事例では、論理の妥当性という点からは、問題であった。

そこで、本稿では、住居の空間構成における機能分析のための11事例を、1. 西洋と東洋、2. 近代と伝統、の座標軸の設定の中から抽出し、より客観性のある内容にしようとするものである。

2. 用語の説明—狭義と広義の機能図

住居の空間を構成している全体単位空間それ自体が、出入口の数がゼロの空（くう）である（この空間把握それ自体が、本論文のオリジナリティの一つである）。この全体単位空間の空を、あくまでも機能のレベルでしか認めず、部分単位空間の構成要素である間と室の総計で平面図全体が構成されるという立場から、住居の空間を機能分析する。これが、従来からの狭義の機能図である。

これに対して、広義の機能図は、全体単位空間の空を、ある部分単位空間の中に実体として、要請し、空の実在を認める（独立した通路空間などが、その代表的空間である）。その結果、狭義の機能図を構成している部分単位空間の構成要素である間と室だけではなく、全体単位空間の構成要素である空との組み合わせ単位空間と、その構成要素である部屋あるいは空室あるいは空き間が、生成するならば、これを、広義の機能図として把握・認識する（詳しくは、分析結果の機能図。参照）。

素材と方法

1. 素材

1. 伝統的な地中海の中庭式住居（図1）

この住居は、スペイン南部のアンダルシア・コルドバにある地中海の伝統的な住居である。この住居の中庭は、2つ直交軸の接点に位置している。そして、そこに、噴水がある。これが、また、中庭式住居の特徴である。

2. 韓国の伝統的な住居（図2）

韓国の伝統的な農村住居の1タイプである。伝統的な地中海の中庭式住居に対して、韓国の伝統的な住居は、一列型で配置されているのを特徴にしている。また、土間が台所であり、各室は独立している。なお、この各室構成は、日本の伝統的な農村住居の床上空間と対照的である。

3. 中国の伝統的な四合院の住居（図3）

中国建築における伝統的な配置構成の単位を、四合院と呼んでいる。すなわち、四つの棟

が、中庭を囲んで構成されているという住居形式のことである。この構成は、地中海の中庭式住居と基本的には、同じ形式であると言える。

4. アメリカの近代的な住居 (図4)

M. ブロイヤー邸は、近代のアメリカを代表するプランとして有名である。それは、生活を二元論の視点：リビングと寝室の明快な分離から、デザインしたことにあり、日本の住居デザインの設計手法に強い影響を与えた。

5. 日本の近代的な住居 (図5)

坂倉建築研究所設計の奈良県学園前にある近代的な住居である。この日本の近代的独立住居は、家族の集まる空間と私的な個人的空間との分化を試行したプランとして有名である。このプランニングは、M. ブロイヤーの空間構成と同じである。ここに、近代住居のプランニングの共通性を読み取ることができる。

6. 伝統的な農村住居の広間型1 (図6)

日本の伝統的な農村住居の典型的なタイプの一つである。床上に、広い板間があることを特徴としており、ここで、地域の接客生活も行われる。いわゆる、地域に開かれたプランである。

7. 伝統的な農村住居の広間型2 (図7)

狭義の機能図では、事例6と同じ広間型である。しかし、広義の機能図では、床上空間が、異なった様相で現れる。そのことを示す事例として、ここでは抽出してみた。

8. 伝統的な農村住居の四間取り (図8)

日本の民家形式の一つで、全国的に見られる代表的な農村住居の典型である。このプランは、広間型と異なり、地域の接客生活と家族の生活の場所との間に仕切りを入れたプランになっている。すなわち、広間型より、少し、近代的なプランと言える。

9. 日本の伝統的な町屋住居 (図9)

長野県・奈良井にある伝統的な町屋のプランである。細長い土間が縦軸に配置されているのを特徴にしている。

10. 近代的な中廊下式住居 (図10)

明治末年から大正時代にかけて、中流階層の住居として、このタイプが現れる。中廊下を挟んで南側に生活空間、北側に浴室・便所・納戸・玄関などを配置するのが、このプランの特徴である。

11. 3LDKの住居 (図11)

現在の分譲マンションの一事例として抽出した、いわゆる3LDKと表示されているプランである。これが、広義の機能図では、2LDK+1と整理される。その空間様相の差異を表現する意味で、ここに、取り上げた。

2. 方法

- (1) まず、広義の機能図の立場から、今回、提出した、代表的な住居(11事例)の空間構成について分析する。
- (2) その結果、組み合わせ単位空間が生成しなければ、従来の狭義の機能図として整理する。
- (3) 組み合わせ単位空間が、生成するならば、これは、広義の機能図として分類する。

1. 狭義の機能図の立場からの分析事例

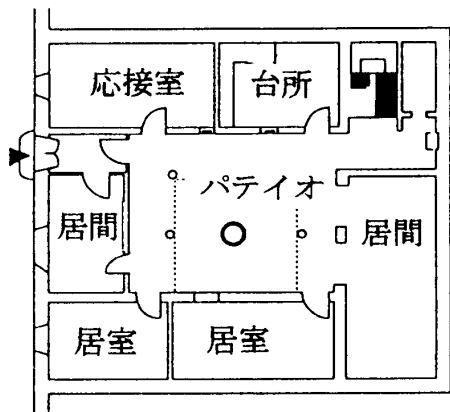


図1 中庭式住居 (地中海)

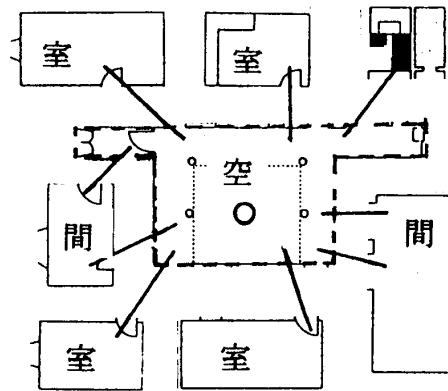


図1-1 機能図 (狭義)

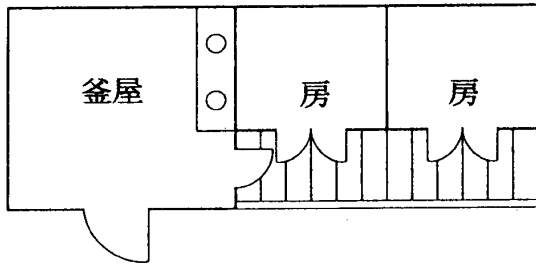


図2 韓国の住居 (伝統的)

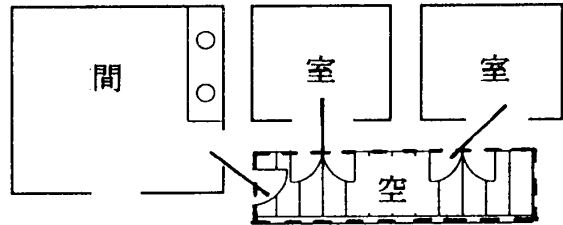


図2-1 機能図 (狭義)

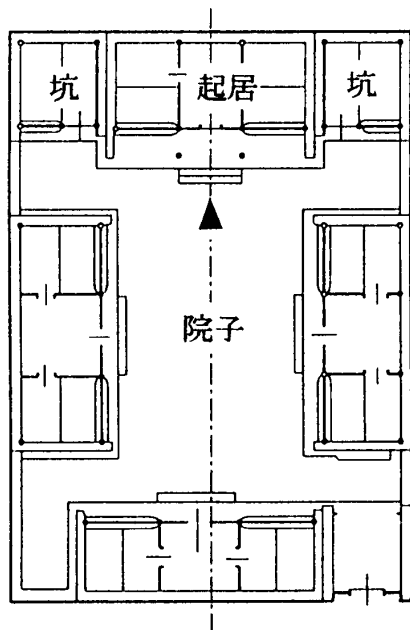


図3 四合院の住居 (中国)

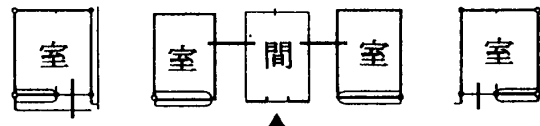


図3-1 機能図

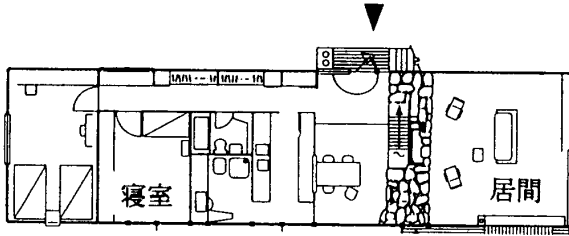


図4 M. プロイアー邸 (アメリカ)

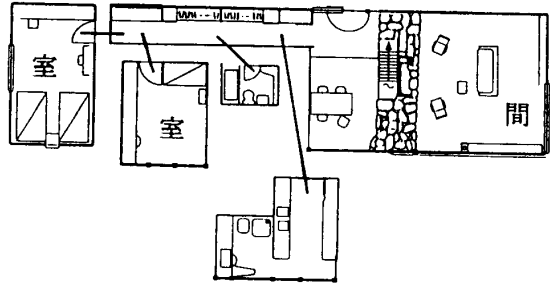


図4-1 機能図

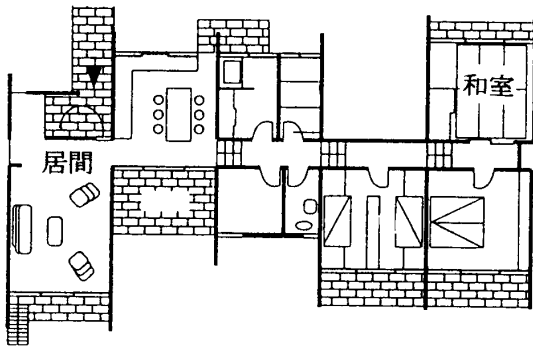


図5 学園前の家 (日本)

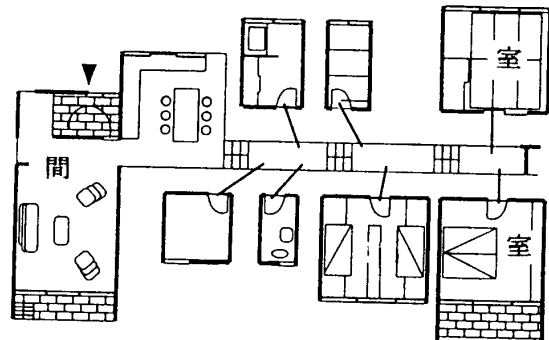


図5-1 機能図

2. 広義の機能図の立場からの分析事例

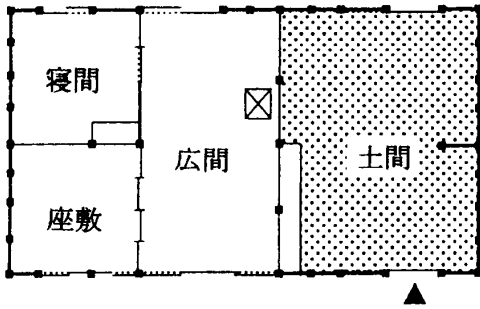


図 6 広間型の住居

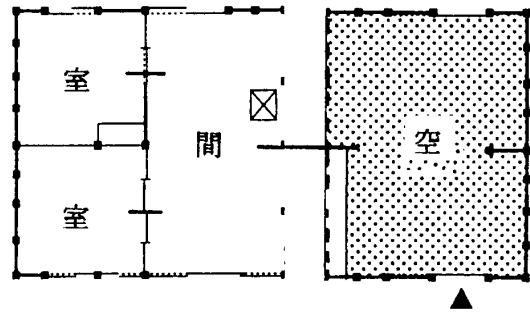


図 6-1 機能図 (広義)

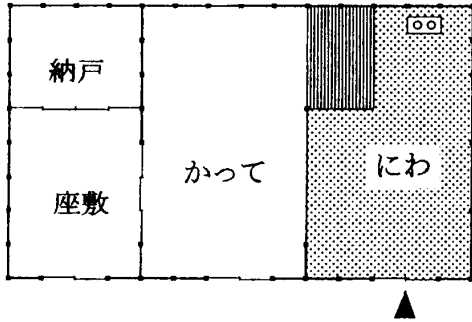


図 7 広間型の住居

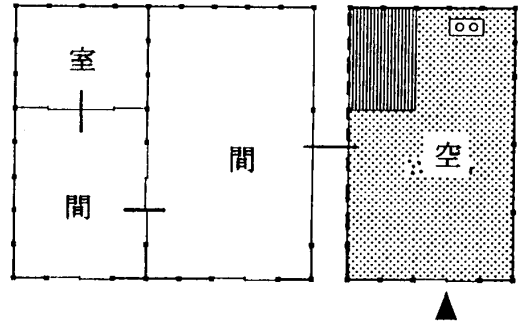


図 7-1 機能図 (広義)

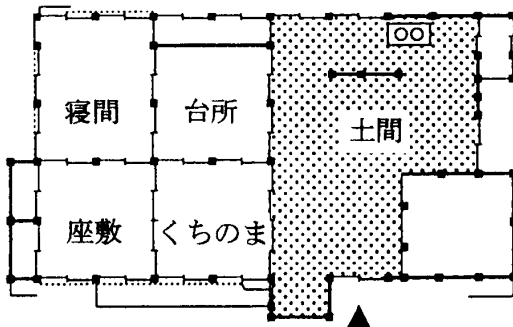


図 8 四間取りの住居

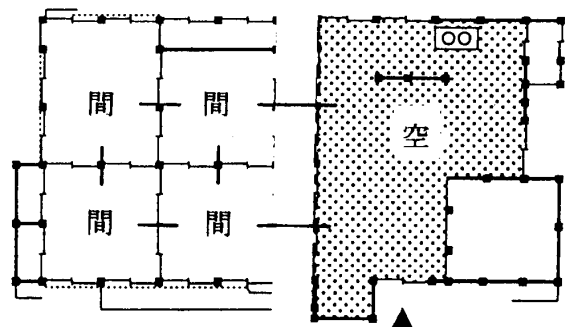


図 8-1 機能図

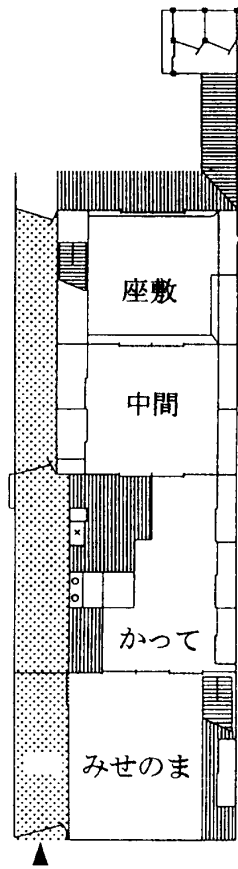


図9 中村邸 (町屋)

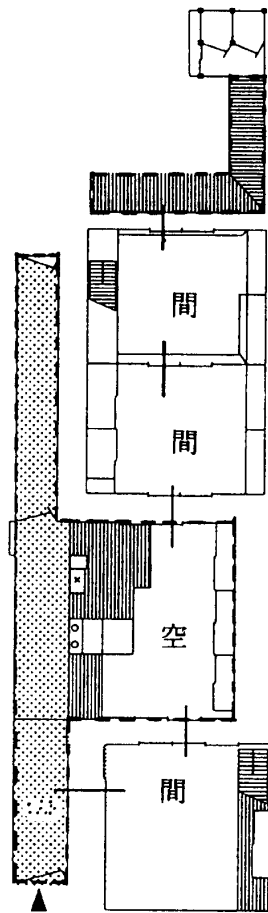


図9-1 機能図

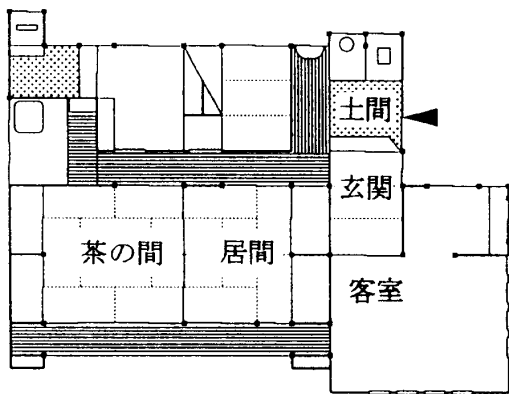


図10 中廊下式住居

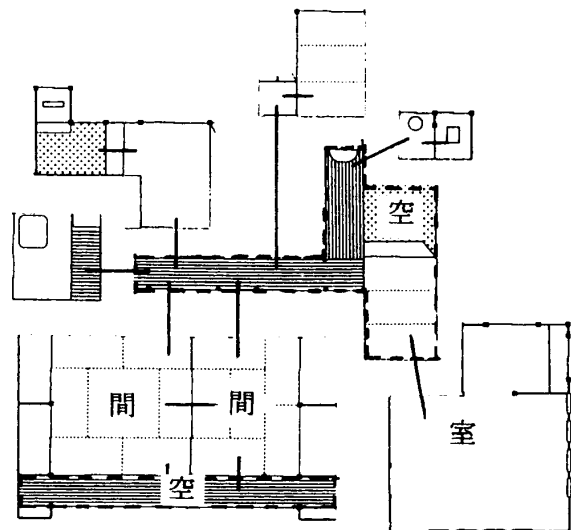


図10-1 機能図

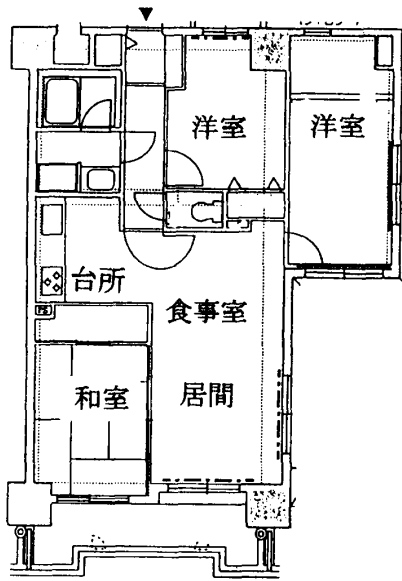


図11 3LDKの住居

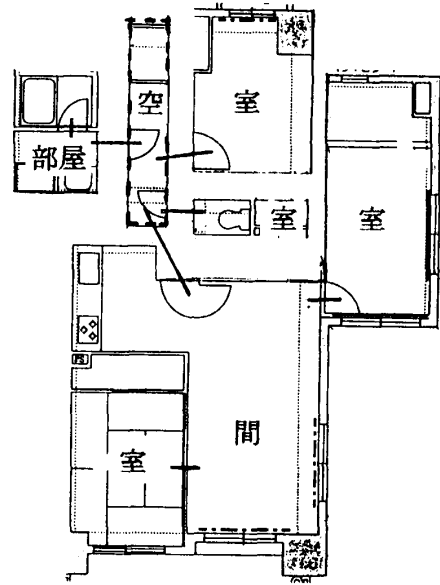


図11-1 機能図

分析結果と考察

地中海の伝統的民家である中庭式住居(図1-1), アメリカのモダン住居の代表例であるM. プロイヤー邸(図4-1), 及び東洋(中国・韓国)の伝統的住居(図2-1, 図3-1)は, 狭義の機能図が適用される。また, 日本の建築家による現代の独立住居(図5-1)も, 狭義の機能図で分析・適用される。これは, 近代生活における合理主義(二元論)―特に, アメリカの実証主義―の立場からの住居設計のデザインであるので, 当然である。その意味で, 時代の典型例である。

これらの住居のプランニングに対して, 日本の伝統的な住居(町屋・農家)は, 広義の機能図で分析される(図6, 7, 8, 9-1)。そして, 明治期に成立した中流住宅の中廊下式住居(図10-1), 及び最近の分譲マンション住居(図11-1)も, この広義の機能図が, 適用される。

このことは, 日本の住居の空間構成には, 狭義と広義の機能図の差異を決定する組み合わせ単位空間の实在が, その特徴としてあることを意味していると思われる。

結 論

住居の空間分析―特に, 日本の住居の場合―には, 狭義の機能図を内包する広義の機能図の立場からの分析・適用が必要であると考えられる。

謝 辞

本論文をまとめるにあたり, 草稿の段階から, ロンドン大学建築環境学部バートレット大学院・ジュリーネ・ハンセン博士の御指導を受けることができました。紙面をお借りし

て、謝意を表します。

文 献

- (1) 佐々野好継：住居の空間構成に関する研究—単位空間の両義性—，長崎大学教育学部自然科学研究報告 第59号，1998
- (2) 畑聡一：南欧のマイクロコスモス，丸善，1992
- (3) 朱南哲・野村考文：韓国の伝統的住宅，九州大学出版会，1981
- (4) 劉敦楨：中国の住宅，鹿島出版会，1976
- (5) 日本建築学会編：建築設計資料集成，丸善，1993
- (6) 住宅問題講座編集委員会：住宅計画 6，有斐閣，1969
- (7) 奈良国立文化財研究所：木曾奈良井，長野県檜川村，1976
- (8) 平井聖：日本住宅の歴史，日本放送出版会，1981